

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
JAPANサッカーカレッジ	平成14年1月9日	中村 勉	〒957-0103 新潟県北蒲原郡聖籠町大字網代浜925番地2 (電話) 0254 (32) 5357																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人 国際総合学園	昭和32年10月10日	池田 弘	〒951-8065 新潟県新潟市中央区東堀通一番町494番地3 (電話) 025 (210) 8565																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
文化・教養	文化・教養専門課程	マネージャー・トレーナー科	平成28年文部科学省告示 第18号	—																							
学科の目的	2年間を通して、多くの現場実習やインターンシップを経験し、高い自主性を養う。また、実際にプロの現場で学び経験を積むことで卒業後に即戦力となる人材を育成する。																										
認定年月日	平成31年3月15日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
2年	昼間	1784時間	336時間	192時間	1192時間	—	64時間																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
70人	71人	0名	3名	5名	8名																						
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 A(優) B(良) C(可) D(不可) H(保留)																							
長期休み	■夏期休業:8月1日～8月31日 ■冬期休業:12月20日～1月7日 ■春期休業:3月15日～4月5日		卒業・進級条件	■要出席時間数の80%以上出席していること ■必要科目単位をすべて取得していること ■学費等に未納が無いこと																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学生コンシェルジュの設置(担任以外の教員による面談等) 保護者宛に活動報告書を送付(保護者との連携) 個別対応(スクールカウンセラーによるカウンセリング)		課外活動	■課外活動の種類 学校周辺地域清掃活動 地域イベントボランティア参加 ■サークル活動: 無																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和4年度卒業生) サッカー業界(全国のJリーグクラブや地域クラブ)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)																							
	■就職指導内容 個別面談を実施し、本人の希望職種を確認した上で、インターンシップを実施。 授業内外において面接指導や履歴書作成指導を実施。			<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スポーツシューフィッター</td> <td>③</td> <td>41人</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	スポーツシューフィッター	③	41人	41人												
資格・検定名	種別	受験者数		合格者数																							
スポーツシューフィッター	③	41人		41人																							
	■卒業者数 : 41 人 ■就職希望者数 : 41 人 ■就職者数 : 41 人 ■就職率 : 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 : 100 %		※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																								
	■その他 (令和4年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)																										
中途退学の現状	■中途退学者 3名 令和4年4月1日時点において、在学者83名(令和4年4月1日入学者を含む) 令和5年3月31日時点において、在学者80名(令和5年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 精神疾患・人間関係構築上の問題 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセラーによるカウンセリングの実施		■中退率 3.6%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度:有 ご家庭の経済状況から学費の準備が厳しい場合に、全国的に多く用いられている日本学生支援機構の奨学金から、NSGカレッジリーグ独自の制度まで、豊富な奨学金制度が利用可能。(日本学生支援機構 奨学金制度(第一種・第二種)・NSGカレッジリーグ無利子奨学金制度(新卒者・新卒者以外)・NSGカレッジリーグ母子・父子家庭奨学金制度・NSGカレッジリーグ災害奨学金融資制度・地方自治体の奨学金制度・国の教育ローン・NSGカレッジリーグ提携教育ローン・NSGカレッジリーグ学費奨学金融資・その他公的な奨学金・民間団体の奨学金)http://mydreams.jp/scholarship ■専門実践教育訓練給付:給付対象 http://cupsnet.com/benefit/ 前年度実績数0名																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:無																										
当該学科のホームページURL	http://cupsnet.com/about/course/manager/																										

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

JAPANサッカーカレッジ マネージャー・トレーナー科と㈱アルビレックス新潟が連携し、サッカー業界における優れた人材を育成することを目的とする。JAPANサッカーカレッジ マネージャー・トレーナー科が、㈱アルビレックス新潟と連携し、授業や外部実習等の様々な経験を通して優秀な人材を育成することで、在籍する学生自身にとって卒業後の就職先が広がるとともに、新潟県内のみならず日本全体のサッカー業界において即戦力となる人材の育成システムを牽引していくことができるような関係を構築していく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

以下の順序により意思決定をする。

1. マネージャー・トレーナー科ミーティング ⇒ 2. 教務会議 ⇒ 3. 教育課程編成委員会 ⇒ 4. マネージャー・トレーナー科教育課程編成会議 ⇒ マネージャー・トレーナー科における授業内容およびカリキュラム決定

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
国枝 晴隆	新潟県下越地区サッカー協会理事	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	①
井場 正知	特定非営利活動法人日本SAQ協会インストラクター	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	③
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ顧問	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	
中村 勉	JAPANサッカーカレッジ学校長	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ教務部長	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	
小関 高嗣	JAPANサッカーカレッジ事務局長	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	
三ヶ月 宏	JAPANサッカーカレッジ学科主任	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間2回(8月・2月)開催予定

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月20日 15:00～16:00

第2回 令和5年2月8日 15:00～16:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

マネージャーとしてのスキルアップのためには実習量の確保が絶対的に必要となるため実習時間の見直し(増加)の意見が出されたため、カリキュラムに取り入れ、㈱アルビレックス新潟での実習以外にも内部実習の時間を増加させた。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

(株)アルビレックス新潟と連携し、マネージャーとして、またトレーナーとしての技術・技能を向上させ、卒業後にサッカー界において即戦力となる人材を育成する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

用具管理授業において、(株)アルビレックス新潟で実際にエキップメントマネージャーをされている方を講師として招聘し、実際にプロの現場で行われている業務を直接肌で感じる。見て学ぶとともに、プロのマネージャー指導のもと実践し、アドバイス・評価をいただく。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
用具管理	(株)アルビレックス新潟との連携授業を通して卒業後にサッカー界において即戦力となるマネージャー・トレーナーを育成する。	(株)アルビレックス新潟

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

(株)アルビレックス新潟の推薦を受け、公益財団法人 日本サッカー協会が主催する指導者講習会に参加することを諸規定に定める。毎年10月にトライアルを受験させ、6月(前期)・9月(後期)に受講する。教員自身の指導能力向上を目的とするとともに講習会内容を授業や実習等で活用する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「日本サッカー協会公認キッズリーダーインストラクター養成講習会」(連携企業等:株式会社アルビレックス新潟)

期間:令和5年3月21日(火・祝) 対象:マネージャー・トレーナー科教員1名

内容:子どもたちに関わる指導者に対し、体を動かすことの楽しさを伝える指導者の養成を目的とし、実技1.5時間、講義1.5時間のカリキュラム構成

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:「最高の職場で豊かな人生を送るために知っておきたい5つの捉え方」研修(連携企業等:株式会社アビリティトレーニング)

期間:令和5年3月22日(水) 対象:マネージャー・トレーナー科教員3名

内容:新年度を迎えるにあたり、改めて学び直すきっかけに。クラス運営や学生指導について有益な気づきが得られる研修。授業だけでなく即座の判断が求められる日頃の学生指導においても有効活用する。講師は木下晴弘氏。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:「JFA公認C級コーチ養成講習会」(連携企業等:株式会社アルビレックス新潟)

期間:(前期)令和5年5月~7月、(後期)令和5年9月~11月 対象:マネージャー・トレーナー科教員1名

内容:サッカーの全体像を理解し、基本的な知識・指導力を獲得する講習会

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:クラス運営・退学抑止・学生指導に関する研修会(連携企業等:株式会社アビリティトレーニング)

期間:令和6年2月 対象:マネージャー・トレーナー科教員3名

内容:昨年度に引き続き株式会社アビリティトレーニングの木下晴弘先生を招聘し、新年度を迎える前の教職員のモチベーション向上、指導スキル向上を目指した研修会を開催。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について報告し、各評価委員から、自己点検・評価報告に対する意見を頂き、頂いた意見を今後の学校運営に参考活用する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	1. 教育理念・目標
(2) 学校運営	2. 学校運営
(3) 教育活動	3. 教育活動
(4) 学修成果	4. 学修成果
(5) 学生支援	5. 学生支援
(6) 教育環境	6. 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	7. 学生の受入れ募集
(8) 財務	8. 財務
(9) 法令等の遵守	9. 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	10. 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	11. 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会を開催し、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己点検報告書」について、当校に關係の深い11名の評価委員に評価していただいている。委員会より「マネージャー・トレーナー科では、より一層プロに近づくための実習時間の確保が必要」との意見が出され、カリキュラム編成・授業内容・授業時間や期間・担当教員の選定などに役立っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
国枝 晴隆	新潟県下越地区サッカー協会	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	①
寺川 能人	(株)アルビレックス新潟	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	③
小出 隆一	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	顧問
中村 勉	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学校長
原 朋洋	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	教務部長
小関 高嗣	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	事務局長
小川 修平	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任
竹川 昌彦	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任
諏訪 雄大	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任
三ヶ月 宏	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任
須崎 政幸	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任
老田 聡孔	JAPANサッカーカレッジ	令和4年11月1日～令和6年10月31日(2年)	学科主任

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
9月中旬に学校ホームページ上で公開(URL: https://www.cupsnet.com/pdf/r5_01.pdf)

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

JAPANサッカーカレッジが作成した「学校自己評価報告書」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について情報を提供する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	1. 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	2. 各学科等の教育
(3) 教職員	3. 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	4. キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	5. 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	6. 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	7. 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	8. 学校の財務
(9) 学校評価	9. 学校評価
(10) 国際連携の状況	10. 国際連携の状況
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())
教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会のほかに別途会議を開催し文書にて㈱アルビレックス新潟へ報告している。
また学校ホームページ上でも公開している。公開時期は学校関係者評価委員会終了後の9月中旬。
(URL: https://www.cupsnet.com/pdf/r5_01gh.pdf)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程マネージャー・トレーナー科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 と の 連 携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			コミュニケーションスキル	自己紹介や挨拶等を通じ、コミュニケーションの大切さを知るとともに、基礎的なコミュニケーションスキルを習得する。	1通	32	2	○			○			○	
○			クラブ経営実践論	アルビレックス新潟の各部署より毎時間異なる講師を招聘し、アルビレックス新潟における経営について学ぶ。	1通	32	2	○			○			○	○
○			○AⅠ	文章入力から編集の基礎を学び、一般的なビジネス文章（社外文章、社内文章、案内状など）を作成できるようにする。	1前	16	1	○			○			○	
○			○AⅡ	Microsoft Excelを使用した表計算の基礎を学び、Excel検定3級取得を目指す。	1後	16	1	○			○			○	
○			社会人常識マナー&就職実務	自己分析を含め就職とは何かを考えさせるとともに動機づけを行う。就職活動のマナー、面接、スピーチ対策等を実施し就職活動への準備を目的とする。	1通	32	2	○			○			○	
○			就職実践	社会人になった際に必要となってくる一般常識を学び、教養を身につけると共に、サービス接遇について学ぶ。	2後	16	1	○			○			○	
○			英会話	テキストの内容に即しながら行う各講義で、それぞれの内容を理解しながら、年間を通じて学生が英語で会話することを目指す。	1通	32	2	○			○			○	
○			クラスホームルーム	スケジュール共有や連絡自校の確認などのほか、就職活動状況の報告の場として、学生自身が活動内容を報告・発表する。	1・2通	64	4	○			○			○	
		○	海外インターンシップ	海外インターンシップを希望し学内選考により選抜された場合、海外インターンシップに参加する。その際学年文単位を振り替えることとする。	2通	(4 3 2)	27				○			○	○
○			救急法	AEDの使用法や、応急処置の方法を学ぶとともに、日本赤十字社認定赤十字救急法救急員の資格を取得する。	1通	32	2	○			○			○	
○			トレーナー概論	トレーナーの果たすべき役割、業務を理解する。	1通	32	2	○			○			○	

(文化・教養専門課程マネージャー・トレーナー科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			栄養学	基礎的なスポーツ栄養の知識を取得し、コンディションや状況に合わせた食事について自ら考え・選択・実践・指導できるようになる。	1通	32	2	○			○			○	
○			マネージャー概論	マネージャーとしての基礎を講義を通して学ぶ。	1通	64	4	○			○			○	
○			マネージャー実務	マネージャーとしての実務を講義を通して学ぶ。	2通	32	2	○			○			○	
○			チーム活動演習	チームにおけるマネージャーの役割を理解し、活動を通して技術・技能を身に付ける。	1・2通	192	12		○		○				○
○			外部実習	学校外部のチームにおいてマネージャー実習をおこなう。	1通	64	4			○		○			○
○			内部実習	学校内部のチームにおいてマネージャー実習をおこなう。	1・2通	896	56			○	○				○
○			キッズリーダー指導実践(前期)	日本サッカー協会公認キッズリーダーの資格取得を目指す。	1通	32	2			○	○				○
○			キッズリーダー指導実践(後期)	日本サッカー協会公認キッズリーダーの資格取得を目指す。	1通	32	2			○	○				○
○			指導実践	日本サッカー協会公認C級コーチの資格取得を目指す。	2通	64	4			○	○				○
○			実習遠征	実習担当チームの公式戦・対外試合・遠征・合宿に帯同し、マネージャー・トレーナーとしての経験をつむ。	1通	72	5			○		○			○
○			卒業研修	卒業年次生においては卒業研修を実施し、今後社会に出てからの準備を行う。	2後	96	6			○		○			○
合計					22科目		1784時間								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
必須科目全ての授業単位を取得すること。各授業80%以上の出席率であること。	1学年の学期区分	前後期
	1学期の授業期間	16週